

研修名 乳児保育・教育

平成29年12月19日(木) 10:00~12:30

講演 「乳児保育における記録と評価」

講師 子どもことば研究会 今井 和子 氏

1 講演要旨

- ・指針の改定⇒3歳未満児の需要増加に伴い、保育の充実・質の向上が必要
H30年度より乳児/1,2歳児/3才以上児 の表記となる
乳児保育のポイント…①健康でのびのびと ②人との関わりを大切に
③身近なものに関わり、感性を育む
自発的なあそび⇒自ら環境に関わり、遊び出す力が大切
3歳未満児において形成される自己肯定感により、人との関わりを大切に、人を愛することを学ぶ
- 1) 指導計画の考え方
 - ・指導計画は「子どもの求め」と「保育者の願い」をかみ合わせ、実現する保育の道しるべ 見通しをたてるもの
計画→実践→記録→評価→改善→計画を繰り返すことが大切
- 2) 指導計画のたて方
 - ・3歳未満児の指導計画作成の基本は一人ひとりの育ちの理解 個人差にどれだけ対応できるか ねらいは願いである
例 DVD しんちゃんの乱暴…行動は子どもの自己表現 行動は言葉に代わる言葉 言葉にならない言葉を適切に読み取ることが大切
見る…目にものが見える働き 観る…目に見えないものを見ようとする働き
見えないものを見ようとするのが保育の醍醐味であり、その為に指導計画や記録が大切となる 目に見える姿だけが真実ではない 子どもの行動には訳がある どんな子どもも決して否定的に見ない 大人が子どもの見方を変え、関わり方を変えれば、子どもは必ず、変わる
 - ・発達過程に応じた保育…3歳未満児は個人カリキュラムが主流 クラス運営的カリキュラムを添える ※家庭と共に考えることが大切
 - ・指導計画の作成とその手順
 - ① 乳幼児の実態(実際の姿)を把握する
 - ② 具体的なねらいと内容を設定する
ねらい…具体的な乳幼児の姿と全体としての見通し(保育過程)を基に、子どもが「興味を持つ」「やろうとする」など心情・意欲・態度で示す(到達目標ではない)→乳幼児の中に育つもの、育てたいもの

内容…ねらいを達成するために、何を身につけていくかという「経験」すなわち、経験する必要のあること、経験させたいこと

- ③ 環境の構成
- ④ 子どもの活動を予測する
- ⑤ 援助のポイント及び配慮すべきこと
- ⑥ 評価…的確な現状認識、課題の抽出、その課題に対し具体的な方針を打ち立てていく作業

3) 子どもの理解を深める記録の書き方、評価の仕方

- ・なぜ書くか…大事な出来事を忘れないため 目に見えない心の動きを捉え支えるため（感動の保存） 書くことによって自分の子どもの見え方、保育の捉え方を知る⇒子ども理解を深めるため

・書き方のポイント

- ① 視点を定める…書く必然性があるか（書きたいところを選び出す）
- ② 子どものありのままの姿（状態像）を具体的に書く
※そこに居ない人にも浮かんでくるように…
- ③ 状態像をどう観て関わったか…実践記録の本質的要素
- ④ 評価をしっかりと書く…ありのままの姿を見て、良い所を押さえたり、課題を見つける 具体的な方針を打ち立てていく作業

※保育者は成長著しい子どもとのひと時、ひと時を大切に、感動を保存するために記録する

2 感想

今回、研修に参加させて頂き、今まで当たり前のように書いてきた指導計画や記録を書く意図やその重要性・大切さに改めて気づくことができた。

指導計画の中の「ねらい」は、子どもの願いと保育者の願いの両立が必要なこととも理解できた。また記録の書き方や評価の仕方での注意点を学び、反省することも多かった。大切な記録を書くにあたり、「具体的」を意識し、意味のある・次に活かせる記録を残せるよう意識掛けていきたい。

最後に DVD 視聴での話の中で、子どもの行動には「わけ」があること、目に見える姿だけが真実ではないこと、そして大人が子どもの見方を変え、関わり方を変えれば、子どもは必ず変わるという話が印象的で、今まで以上に個々の子どもを丁寧に見守り、関わり方を工夫しながら真の子どもの姿を理解できるよう努力したいと思った。

（記録 今里保育園 石田京子）